

第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想の策定状況について

資料 6

1 大会準備のこれまでの経緯と今後の予定

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会
(事務局：奈良県 地域創造部 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室)

年月	内容	逆年
昭和59年	第39回国民体育大会（わかくさ国体）・第20回全国身体障害者スポーツ大会（わかくさ大会）開催	
令和2年11月	奈良県・奈良県教育委員会・奈良県スポーツ協会等から、文部科学省、日本スポーツ協会等へ開催要望書を提出	11年前
令和3年1月	日本スポーツ協会より、令和13年（2031年）開催の第85回国民スポーツ大会の開催県として内々定の通知	10年前
令和3年11月	第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会を設置 開催基本方針を決定	10年前
令和4年8月	開催準備総合計画（第1次）等を決定	9年前
令和5年8月	国スポ競技会場地市町村第1次選定	8年前
令和6年8月	国スポ競技会場地市町村第2次選定 ／ 開催基本構想を令和7年に策定することを決定	7年前
令和7年3月（予定）	国スポ競技会場地市町村第3次選定 ／ 開催基本構想の検討の経過を報告	6年前
令和7年（予定）	中央競技団体による競技会場地正規視察 ／ 開催基本構想を決定	6年前
令和8年（予定）	日本スポーツ協会、スポーツ庁へ開催申請書を提出（→開催内定）全スポ競技種目の決定	5年前
令和9年（予定）	県外開催競技会開催基本方針	4年前
令和10年（予定）	国スポ開催正式決定・会期決定 ／ 国スポ・全スポ奈良県実行委員会を設置	3年前
令和11年（予定）	競技別会期協議 ／ 全スポ競技別会期の決定	2年前
令和12年（予定）	実施要項等協議 ／ 各競技リハーサル大会	1年前
令和13年（予定）	第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会開催	開催年

第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想の策定状況について

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会
(事務局：奈良県 地域創造部 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室)

2 開催基本構想の検討の経過と今後のスケジュール

年月		内容	逆年
令和6年度	8月	常任委員会において、開催基本構想を令和7年8月目途に策定することを決定	7年前
	10月	事務局において、開催基本構想の骨子を作成	
	10月～11月	開催基本構想の骨子について、総務企画専門委員会へ意見照会、準備委員会委員へ提案募集を実施 (1) 総務企画専門委員会に対する意見照会 ア 意見の対象 事務局で作成した骨子全体 イ 照会期間 令和6年10月29日～同年11月19日 ウ 提出者数 7人 エ 意見の数 25件 (2) 準備委員会委員に対する提案募集 ア 提案の対象 ・「奈良県のスポーツを取り巻く現状と大会開催の意義」に盛り込むべき現状・課題、大会開催の意義 ・「奈良県が目指す大会の姿と具体的な取り組み」に紐づく具体的な取り組み例について、所属する団体・機関が取り組もうと考える内容 イ 募集期間 令和6年10月29日～同年11月19日 ウ 提出者数 16人 エ 提案の数 68件	
	2月	本日（2月7日）の総務企画専門委員会において、開催基本構想（素案）を審議 → 開催基本構想（素案）の概要は次ページ	
	3月	常任委員会に検討の経過を報告	
令和7年度	4月	県民からの意見募集（パブリックコメント）	6年前
	7月	総務企画専門委員会において、意見募集の検討結果と開催基本構想の案を審議	
	8月	常任委員会において、開催基本構想の案を審議、決定	
		総会において、常任委員会の決定事項を報告	

第85回国民スポーツ大会・第30回全国障害者スポーツ大会 開催基本構想（素案） 概要

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会奈良県準備委員会

（事務局：奈良県 地域創造部 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会準備室）

○策定の趣旨

開催基本構想は、奈良県が目指す大会の姿を明らかにし、県、市町村、競技団体、関係団体・機関、学校、企業など様々な主体が連携協力して、大会開催及び開催準備に取り組む指針として示すものです。

○目指す大会の姿

国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を一過性の競技会やイベントとして捉えるのではなく、スポーツをしたい人が快適にスポーツに親しめる環境を整えることを大会のレガシーとして位置づけ、スポーツを支える体制や仕組みを次世代へと継承します。

大会をきっかけとして、スポーツを「する」「観る」「支える」といった行動が定着し、健康的な生活や心身の豊かさをもたらすことで、社会全体として持続可能な幸せ「ウェルビーイング（well-being）」を実現することが目標です。

1. 未来をつくる大会

新しい大会をつくることで、県民や地域社会、次世代のための未来をつくります。

2. スポーツとつながる大会

この大会を通じて、スポーツを中心としたつながりを生み出し、次世代へとスポーツの価値を引き継ぎます。

「未来をつくる大会」と「スポーツとつながる大会」という2つの姿を実現するための取り組みを展開していきます。

コンパクトな、新たな大会

- ・ 開・閉会式の全体時間を短縮することで参加選手のコンディションに配慮する等、新しい大会運営の方法を模索し、全体の質を維持しつつ満足度の高い大会を目指します。
- ・ 既存の施設を最大限活用し、整備・改修が必要な場合でも将来にわたって施設が果たす役割と財政負担とのバランスを考慮した施設整備を推進します。

連携・協働でつくる大会

- ・ 県、市町村、競技団体、関係団体・機関などの様々な主体が連携協力して大会に関わり、大会の成功に貢献します。

共生社会をつくる大会

- ・ ユニバーサルデザインの視点に立った大会づくりを目指します。
- ・ 全国障害者スポーツ大会を契機に、心のバリアフリーを進め、障害者スポーツへの理解を促進します。

「する」「観る」「支える」でスポーツとつながる

- ・ スポーツを応援することの楽しさを感じ、選手の活躍に感動や憧れを抱くことで、スポーツへの関心を高めることを目指します。
- ・ 大会を契機に、県民一人ひとりが運動や身体活動への意欲を高め、スポーツ活動が継続的に行われることを目指します。
- ・ 大会の運営を支えるボランティアの募集・養成を行います。

アスリートとスポーツを支える人材をつなぐ

- ・ 多様な主体と連携した次世代アスリートの発掘や育成、強化支援を推進します。
- ・ 指導者や競技役員等の競技を支える人材の確保と養成を促進します。

地域とスポーツがつながる

- ・ 各地で実施された競技がそれぞれの地域に定着することにより、活力ある地域づくりにつなげます。
- ・ 大会に訪れる人々に対し奈良県の魅力を発信し、大会後の再訪につなげることで地域経済を活性化します。